

認知症介護研究・研修大府センター



平成28年度運営事業費研究事業(インハウス研究) 研究報告書(概要版)

認知症介護研究・研修大府センターでは、平成28年度に次の研究を行いました。詳細は、認知症介護情報ネットワーク(DCnet) [<http://www.dcnet.gr.jp/>] をご参照ください。



>> 小集団版「にこにこりハ」 「いきいきリハビリ」の普及

- 小集団版「にこにこりハ」・「いきいきリハビリ」を開発し、効果の検証と、さらなる普及を目的に研修会を開催しました。
- 10名の参加者に対し、講義、実践形式を交え、目的や方法の理解を図りました。
- 小集団プログラムの有益性に対して「興味を持った」、「実践してみたい」といった肯定的な意見が多く、各施設でのプログラムの実践につながりました。

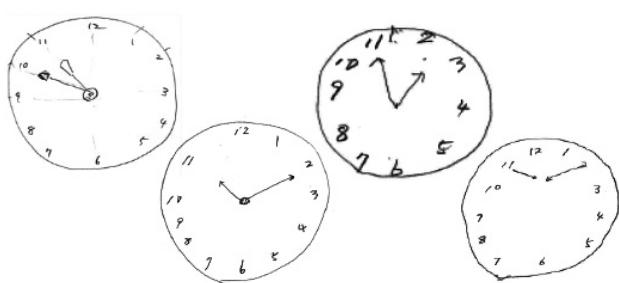


>> 地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための 時計描画テストと手段的ADLの関連に関する研究

概要

1. 地域在住高齢者67名を対象に、MCI(軽度認知障害)の可能性の有無を評価し、手段的ADLとの関連を分析しました。
2. 地域在住高齢者165名を対象に、MCIの可能性のある群の、時計描画の特徴を検討しました。

時計描画の例 (11時10分)



手段的ADL(調理・掃除等)



結果

1. 手段的ADLに関しては、どの高齢者も苦手になっていく、4つの項目が明らかになりました。
2. MCIの可能性のある群の時計には、3つの特徴が見られ、特に数字の異常に留意する必要があることが分かりました。

» 認知症介護指導者を対象とした 「研究活動継続支援プログラム」の実践



- 認知症介護指導者への継続的支援の一環として、研究活動継続支援プログラムを開発しました。
- 平成28年度は、計6名の指導者が参加しました。
- 認知症ケアの質の向上を目指し、研究課題を設定しました。
- 約1年にわたり個別支援(担当制)と全体会の2本柱で指導者の研究活動をサポートしました。
- 研究成果は日本認知症ケア学会で全員が発表、希望者は「論文化支援プログラム」へ進みます。

年月	内容
H28.5	全体会① オリエンテーション
6	個別支援
7	全体会② 研究計画構想発表会
8	個別支援
9	個別支援
10	全体会③ 中間報告会
11	個別支援
12	個別支援
H29.1	個別支援
2	全体会④ 研究成果報告会
3	個別支援
4	個別支援
5	全体会⑤ 学会報告の予行演習
6-7	全体会⑥ 修了式

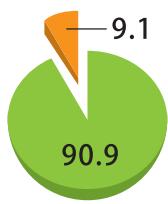
» 認知症介護指導者の地域活動に関する実態調査

目的、及び方法

全国3か所の認知症介護研究・研修センターでは、自治体が行う認知症介護実践者等養成研修(以下、実践研修)で企画や講師を担う認知症介護指導者(以下、指導者)を平成13年度から養成しています。

今回、実践研修以外の地域での様々な活動を行っている指導者の実態(平成27年度中の活動)をWEBを使ったアンケート調査により明らかにして、今後の活動に生かすこととしました。

活動の有無



n=714

- 活動あり
- 活動なし

【活動日数】

- ・実践研修: 59.0%の指導者が年間12日以上従事
- ・地域活動: 39.1%の指導者が年間12日以上従事

【活動のなかつた理由】(活動のなかつた指導者65名)

- ・本務多忙: 36.9%
- ・依頼がないため: 36.9%
- 多くの指導者が認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の活動に参加していることが示唆されました。

活動範囲と対象等

■ 実施した ■ 実施してない n=649

専門職以外への研修等	70.3	29.7
市区町村の委員会・会議等	39.9	59.1
地域包括支援センターとの連携等	47.6	52.4
認知症サポート医との連携等	24.0	76.0
認知症地域支援推進員との連携等	21.3	78.7
介護事業所や医療機関への指導等	48.4	51.6
当事者の相談・啓発活動等	68.3	31.7
一般の人への相談・啓発活動等	60.4	39.6
学会・研究会での発表等	19.9	80.1